沼倉昌明さん『マーサズ・ヴィニヤード島』（１１月１６日配信）

こんにちは！沼倉です。よろしく。
今日は、まじめ…？な話をしたいと思います。

これは、本当にあった話です。
日本はまだ江戸時代だったころ、アメリカにある小さな島が他にはない特徴のある島でした。住民のほとんどがろう者だったんです。ほとんどではないですね。住民のうちろう者の割合が聴者よりも多かったんです。理由については私もよく分かりませんが、遺伝的な要素でろう者が多かったのかなと思います。
島でのろう者と聴者の日常会話は手話でした。聴者は手話をわざわざ勉強したのではありません。自然に身について当たり前に手話を話せていたんです。ろう者の医者や弁護士など、有能な人もたくさんいたそうです。
しかし、技術の発展で、船が行き来したり橋が架かったりして聴者が島に流入するようになると、ろう者の割合も徐々に減ってきて聴者が大勢を占めるようになり、今では手話のできる聴者の島民はほとんどいなくなってしまった、ということです。
本当の話なんですよ。
それでは！！